

地域活性化に繋がる政策提言・地域社会貢献活動を情報発信しよう

高校生、大学生、企業、行政、地域でつくろう！

「希望」のある北海道の未来



(Sophisticated Community and Academics for Networking)

北海道学生研究会 SCAN

2021 年度実施企画

SCAN 運営実行事務局(2021)

北海道学生研究会 SCAN2021 大会開催に向けて

代表挨拶

拝啓

この度、北海道学生研究会 SCAN 第 12 期 運営代表を務めさせていただきます、札幌大学地域共創学群 経営学専攻 3 年の伊澤 滉二です。運営役員も代替わり致しましたのでご報告させていただきます。

さて、おかげをもちまして、北海道学生研究会 SCAN は今年で 12 年目を迎えることができました。昨年度は皆様の新型コロナウイルス感染拡大防止のご協力により、合同研究発表会を開催することができました。皆様のおかげで本年もこの大会を開催することができます。

今後とも弊会をご支援くださります皆様に期待される研究発表会となるよう運営役員一同、努めて参りますので、今後とも何卒ご指導ご鞭撻を賜りたくお願い申し上げます。

まずは、略式ながら書中にてご挨拶申し上げます。

敬具

北海道学生研究会 SCAN(第 12 期)

学生運営代表 伊澤 滉二

令和 3 年 6 月 30 日

北海道学生研究会 SCAN2021 大会開催に向けて

顧問挨拶

2017年に釧路公立大学より運営事務局が札幌大学に移り、早いもので4年目を迎えます。

毎年、少しずつ変化を持たせながら北海道学生研究会SCANのあるべき姿を探りつつ、また在り方を学生とともに考え、チャレンジしてきました。昨年はコロナ禍で大会の開催すら危ぶまれましたが、皆さまのおかげで無事、第11回大会を開催できました。改めて御礼申し上げます。

2021年はようやくコロナワクチンの接種が進み、少しコロナ禍への対応が始まりましたが、まだ危機的状況を脱してはいません。今年度もオンライン大会での開催を視野に準備を進めているところです。逆境やハンデを個性に変え、むしろ発展の糧とする志を持ち、第12回大会の準備を学生とともに進めてまいります。今年も何卒、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

今年は3つの新しいチャレンジを試みたいと考えています。

1つは、発表方法の標準化です。従来からの地域研究の成果発表の場であることには何も変わりはありませんが、このSCANの大会発表会では外部の審査員による公平な評価により表彰する制度を設けてきました。審査員からみて、また聴講者からみても発表がよりわかりやすく、主張がしっかり伝わるように発表方法の標準化を図りたいと思います。昨年は多くの審査員の方からもご指摘を頂いておりましたので、実践していきたいと思います。

2つは、参加大学、参加校の地理的拡大です。

昨年に引き続き、今年もオンライン大会を開催いたしますが、オンライン大会の良さをもっと引き出すために、北海道の主たる大学ゼミナール・チームの発表の場を全国にもっと発信できる機会を作りたいと考えました。また、同時に新規参加校を増やし、ともに地域研究を発展させていきたいと考えています。昨年度も九州・久留米市の久留米大学の先生がご参加されたように、地域研究に関心のある仲間を増やしていきたいと思います。

3つは、ゲスト発表の拡充です。

ゲスト発表は審査員による評価を前提としない発表です。自由方式で発表していただきます。内容も活動紹介や地域紹介、研究紹介といったように研究レベルにはないが、魅力的な情報提供の場を、大会プログラム上に配置し、地域研究に携わる方、地域に関心のある人たちの輪を広げ、同時に知られざる地域の魅力を享受・共有する場をつくりたいと考えています。

学生主体による手作りの研究大会ゆえに顧問の立場としてはエールを送ることしか出来ませんが、サポートできるところはしっかりサポートしていきたいと思います。今大会もよろしく願います。

北海道学生研究会 SCAN 顧問／

札幌大学地域共創学群 経営・会計学系教授

中山 健一郎

令和3年7月30日

第 12 回(2021)合同研究発表会テーマ 「関係人口はどう作るべきか？—ワーケーション元年と地域」

【テーマの説明】

第 12 回大会テーマを説明したいと思います。

この合同研究発表会では、毎年、統一テーマが設定され、時には統一テーマに沿った研究発表も行われてきましたが、基本的にはあまりわかっていないこと、あまり知られていないことを貪欲に学ぶ意味を込めてテーマ設定されてきました。

今大会では、みなさんのあまり聞きなれない「関係人口」、「ワーケーション」をテーマに盛り込みました。

関係人口とは、今、話題の新書『関係人口の社会学』の著書、田中輝美氏(島根県立大学准教授)によれば、地域再生を担う新たな地域外の主体として位置づけしている。いわゆる、地域再生に積極的に関与してくれるよそ者です。

地域住民が主体となって地域再生に乗り出している地域もあれば、よそ者を上手に活用して地域再生につなげている地域もあります。また、田中氏のいう地域再生を地域住民がよそ者と協働して行っている地域もあります。北海道は関係人口ランキングでは、福島県、沖縄県に次ぐ第 3 位にランクしており、関係人口に恵まれた地域となっています。

関係人口をどう増やすか、関係人口をどう活かすか、地域活性化や再生、その他の諸問題を地域の自力解決以外にも選択肢を増やす試みに着目してはどうでしょうか。

副題にあるワーケーションも関係人口を増やすための1つの試みです。

ワーケーションとは、仕事(ワーク)と休暇(バケーション)を組み合わせた造語です。

2019 年当時、官房長官であった菅首相が提案した政策です。もともとはコロナ禍を想定した働き方改革としてではなく、2020 年に予定されていた東京オリンピック開催を念頭に置いた一政策であったようです。

2019 年に生じた、Covid-19 により世界的規模でヒトやモノの移動が制限され、観光・宿泊業や飲食業では大きな経済打撃を受ける中でニューノーマルといわれる、新しいスタイルの常識が生まれるようになり、在宅テレワークやリモート・オンライン会議が日常化しました。ワーケーションもある意味、その延長上にあると考えます。

コロナ禍は、これまでも指摘されてきた、東京一極集中の弊害やデジタル化の遅れを鮮明化させ、また人口密集への不安やテレワークの普及を背景に、地方への人や企業の新たな流れを作り出しています。逆に地方への移住促進に力を入れてきた自治体には、地方への関心が高まっている今のこの環境は、千載一遇の好機という見方もできます。

リモートワークや二拠点居住などの新しい働き方・暮らし方が進みつつあり、首都圏でなくても地方にしながらにして仕事が可能になってきています。

北海道は自然や食に恵まれ、観光でも人気のある地域であり、自然豊かな環境で仕事をし、たっぷり自然や観光、食を楽しんでもらえる魅力を持っています。

北海道庁でも「北海道型ワーケーション」(北海道ならではのワーケーション)を掲げ、首都圏企業にどんどん北海道でのワーケーションを試してもらいたいと意気込んでいます。1つの地域に特化したワーケーションから複数の地域やエリアを結んでの周遊ワーケーション。広大な土地に恵まれた、北海道ではそれが可能です。

現在、北海道では 55 市町村がワーケーションを取り入れた事業の推進に取り組んでおり、その様子を北海道型ワーケーションポータルサイトで参照することができます。

私たちはこのワーケーションの浸透により、ますます地域関心が広がり、また地域研究がより重要性を持つと確信しています。今こそ地域の魅力の再発見と発信、地域にしながら学習と地域貢献の両立、地域をみんなで再認識、再定義することが大切になるでしょう。

今大会ではワーケーションに詳しい方をお招きして、ワーケーションの魅力、可能性、また他の地域によりも評価してもらえるワーケーションの在り方を一緒に考えていきたいと思っています。

どうぞ講演会をお楽しみください。

●特別協力企業(2020 年度実績)

(株)北海道銀行

(株)北海道新聞社

一般社団法人 北海道観光を考えるみんなの会

経済産業省 北海道経済産業局

…今後も協力企業の拡大に努めて行きます。地域社会貢献、地域活性化に力を入れている企業、SCAN 活動を応援して下さいる企業を中心に活動 PR を行っていきます。

事業の紹介

○第 2 回オンライン合同研究発表会 (通算第 12 回大会)

…日頃の北海道での地域活性化、実践的な地域社会貢献の活動成果、研究成果を披露する大会です。今年度は、コロナ禍の影響から初のオンライン開催(Zoom を予定)を予定しています。北海道の地域活性化に実践的な地域社会貢献への取り組みを行っている、あるいは関心を持つ全国の大学生や高校生を対象に呼びかけ、研究発表、活動報告、聴講参加を募ります。

2020 年度実績は 大学 発表事例でした。

開催日:12 月4日、12 月 5 日

場 所:オンライン(zoom)

参加費:無料

(1)研究発表会

- ・道内外の大学生, 高校生参加の発表会
- ・審査対象の発表会と審査をしないゲスト発表会の区分
- ・アフターセッションの設置

(2)ワーケーション・シンポジウムの開催

・ワーケーションを推進しつつ, 関係人口を通じた地域活性化に取り組む自治体を招き, ワーケーションへの理解, 関係人口への理解, また関係人口を活用した地域活性化とは何かを学ぶ機会を提供する。

(3)特別講演会の開催

・関係人口論の先駆的研究者を招き, 関係人口とは何か, 関係人口を通じた地域活性化とは何かを学ぶ。講師としては, 島根県立大学地域政策学部准教授の田中輝美氏を予定している。

(4)規模

オンライン開催形式により, 来場者 200 名を予定している

(5)参加料

登録制の上, 無料で実施する

12月4日(土)タイムテーブル

北海道学生研究会SCAN 第12回合同研究発表会(2021年12月4日～5日)								
		ホスト	中山	大野	石崎	大嶋	小坂	
		司会	阿部・小林	工藤	石崎・高橋・廣島	大嶋	小坂	
		審査員	小玉様, 井手口様	高橋様, 結城様	荒川様, 木本様	笠原様, 星様		
12月4日(土)初日		会場Zoomリンク先	第1会場	第2会場	第3会場	第4会場	第5会場	
		ミーティングID パスコード	857 8681 8916 580268	980 2694 9899 7GXmeK	965 3874 0276 pu2Zj	954 6371 4864 iunHf1J	970 7061 2142 Dq8QSA	
9:20-9:50	30分	開会式						緊急対応
9:50-10:05	15分	ルール説明・ガイダンス						緊急対応
10:05-10:10	5分	移動						司会者対応
10:10-10:15	5分	司会者挨拶(各会場の司会者挨拶)						10:15-10:25
10:15-10:25	10分	審査員挨拶(審査員は各会場にてご挨拶)						
10:25-10:40	15分	第1発表	北海学園大学 宮島ゼミB	函館大学 佐藤ゼミ	釧路公立大学 東ゼミD	釧路公立大学 東ゼミA	10:30-10:40	
10:40-10:50	10分	質疑, 審査員講評						
10:50-11:00	10分	第1発表のアフターセッション(各会場)及び次の発表準備						10:50-11:00
11:00-11:15	15分	第2発表	釧路公立大学 神野ゼミD	釧路公立大学 東ゼミB	北海学園大学 宮島ゼミA	釧路公立大学 神野ゼミC	11:05-11:15	
11:15-11:25	10分	質疑, 審査員講評						
11:25-11:35	10分	第2発表のアフターセッション(各会場)及び次の総会準備						11:20-11:30
11:35-12:05	30分	総会	総会	昼休み				
12:05-12:25	20分	昼休み	昼休み					
12:25-12:40	15分	第3発表	郁文館高等学校A2	北星学園大学 野原ゼミ	釧路公立大学 神野ゼミA	郁文館高等学校A3	12:25-12:35	
12:40-12:50	10分	質疑, 審査員講評						12:40-12:50
12:50-13:05	15分	第4発表	釧路公立大学 東ゼミC	札幌大学 中山ゼミA	郁文館高等学校A8	釧路公立大学 神野ゼミB	13:00-13:10	
13:05-13:15	10分	質疑, 審査員講評						
13:15-13:25	10分	第3発表, 第4発表のアフターセッション(各会場)						13:15-13:25
		ゲスト発表	郁文館ゲスト発表 (A5班) アフターセッション	郁文館ゲスト発表 (A4班) アフターセッション	郁文館ゲスト発表 (A9班) アフターセッション	郁文館ゲスト発表 (A11-10班) アフターセッション	郁文館ゲスト発表 (A6班) アフターセッション	
13:25-13:30	5分	準備時間						
13:30-13:45	15分	第5発表	札幌大学 中山ゼミC	札幌大学 中山ゼミB		釧路公立大学 東ゼミE	13:30-13:40	
13:45-13:55	10分	質疑, 審査員講評						
13:55-14:05	10分		第5発表 アフターセッション	第5発表 アフターセッション		第5発表 アフターセッション	13:55-14:05	
14:05-14:10	5分	移動時間						閉鎖
14:10:16:00	110分	審査会とワーケーションシンポジウム	シンポジウム開催	審査会場				
16:00-16:15	15分	休憩	休憩					
16:15-16:40	25分	審査発表	審査発表					
16:40-16:50	10分	オリエンテーション	明日の説明					

12月5日タイムテーブル

		ホスト	中山	大野
		司会	阿部	大野
12月5日(日)2日目		会場Zoomリンク先	第1会場	第2会場
		ミーティングID パスコード	815 8190 9963 510320	994 2504 9390 9uYNK0
10:00-10:15	15分	ルール説明・ガイダンス		
10:15-10:20	5分	司会者挨拶		
10:20-10:30	10分	審査員挨拶		
10:30-10:50	20分	第1発表		
10:50-11:00	10分	質疑		
11:00-11:20	20分	第2発表		第1発表 アフターセッション
11:20-11:30	10分	質疑		
11:30-11:50	20分	第3発表		第2発表 アフターセッション
11:50-12:00	10分	質疑		
12:00-12:50	50分	昼休み休憩		
12:50-13:10	20分	第4発表		第3発表 アフターセッション
13:10-13:20	10分	質疑		
13:20-13:30	10分	休憩		第4発表 アフターセッション
13:30-14:30	60分	講演会&審査会	特別講演会	審査会
14:30-14:45	15分	表彰式		
14:45-14:55	10分	閉会式		

北海道学生研究会 SCAN
第 12 回 合同研究発表会 (12/4)
特別企画「ワーケーション シンポジウム」

開催日:12月4日(土)14時10分~16時

第1会場

<https://us06web.zoom.us/j/85786818916?pwd=NVMzNFJzano0Q3ZLc0JVa2U5cmhWQT09>

ミーティング ID: 857 8681 8916

パスコード: 580268

司 会:藤原光至(ふじわら こうし)

(北海道学生研究会第12期企画副代表, 札幌大学地域共創学群経営学専攻2年)

中山健一郎(なかやま けんいちろう)

(北海道学生研究会SCAN顧問, 札幌大学地域共創学群教授)

ゲスト:5名

(一社)岩見沢市観光協会 常務理事	石川 恭行 様
株式会社 KOYA.lab 代表取締役	岡崎 慶太 様
当別町企画部セールス戦略課 係長	高橋 慶将 様
合同会社オフィスくりおこ 業務執行役員	高橋 毅 様
津別町町役場住民企画課企画係 主事	渡邊 悠貴 様

企画目的:

北海道の移住・定住および二拠点居住, 関係人口の拡大に向け, その方策の1つとして期待されるワーケーション(仕事+休暇・観光)。今回のシンポジウムでは, 地域の活性化につながり, 持続的な地域づくりに期待される, 関係人口の創出, その手段としてのワーケーションに着目して, どのようにして関係人口を創出するのか, また地域特性にあった手段としてのワーケーションの在り方を知りましょう。また, 主たるターゲットは誰か? 学生はその取り組みにどう関わって行くべきかについて議論していきたい。

(登壇者に関する主な主張ポイント)

岩見沢市観光協会・・・石川恭行(いしかわきょうこう)様

・・・そらちワーケーションの実現と普及に向けた取り組み

・・・中心と周辺の議論にかかわる広域地域連携, 従来の自治体区分, 行政区分を超えた地域連携を探る

・・・楽しいワーケーションがコンセプト

本別町 Koya.lab・・・岡崎慶太(おかざきけいた) 様

・・・本別町, 足寄町, 陸別町の3町を結ぶ地域連携(かつての市町村合併の対象地域)

タイニーハウス(トレーラーハウス)を活用したロケーション重視の非日常ワーケーションの提案

移動式ワーケーションにより3町を結び, 地産地消の経済循環を意識したワーケーションの提案

手ぶらキャンプ, 手ぶらワーケーションがコンセプト

当別町町役場・・・高橋慶将(たかはしけいすけ)様

・・・関係人口創出はワーケーションのみにあらず

農業の盛んな地域, 豊富な農産物, 付加価値の高い商品開発を通じて, 魅力的なふるさと納税の返礼品を充実化。

ふるさと納税の実績は22億円。今年は24億円を目指す。

ふるさと納税者が関係人口。特産品や返礼品に関心をもった人が, ふと近隣地域の観光ついでに立ち寄ってもらい, さらに口コミを広げてもらう関係人口の創出に期待。

関係人口は何も人だけではない。地域の人, モノ, カネ, 情報の資源に関係する人こそ関係人口

栗山町合同会社くりおこ・・・高橋 毅(たかはし つよし)様

・・・関係人口の大本命。神奈川県出身でありながら栗山町の地域おこし協力隊に参加

地域おこし協力隊の退任後, 当該地域に定住。

地域で受けた恩を地域で返す。地域おこし協力隊の活動基盤の整備にも尽力

地域コミュニティの創出につながる関係人口の創出が特徴

ヤムズキッチンというシェアキッチンの取り組み: 町内外の新規出店希望者に厨房貸し→自信をつけてもらい地域内, 商店街で出店してもらう形で新たな関係人口の創出

津別町町役場・・・渡邊 悠貴(わたなべ ゆうき)様

北海道庁からの推薦

・地域おこし, まちづくりに関心のあるよそ者, 若者, ばか者大歓迎。

・課題探求学習の拠点としてインフラ整備をおこない, 道内外の大学も注目。休暇利用の学生のワーケーションも歓迎。

広域地域連携を軸にワーケーションから関係人口創出を図る町

・・・岩見沢市, 本別町

地域おこし協力隊の実績, 経験を活かした地道な地域コミュニティの形成→関係人口・・・栗山町

町役場の視点からの関係人口創出に向けた仕掛け

・・・当別町, 津別町

3つのタイプの関係人口創出事例から何を学ぶかが今回のシンポジウムの醍醐味

タイムテーブル(案)

		流れ	備考
14:10-14:20 (10min)	趣旨説明	学生	司会:藤原
14:20-14:50 (30min)	自治体紹介	5自治体-各5分 地域紹介がメイン 関係人口とは何かを明確に説明してもらう	Zoomチャット欄にて各自自治体, 事例のファイル添付 案内はSCAN運営学生
14:50-15:40 (50min)	関係人口創出に向けた秘策 ・ターゲットにしたい関係人口とは ・関係人口創出の方法 ・今後の展開・計画 ・期待したい効果	5つの自治体...各10分 (スライド使用)	順番は 岩見沢市観光協会 株式会社 KOYA.lab 合同会社くりおこ 当別町役場 津別町役場
15:40-15:55 (15min)	議論・質疑 1人1分×5人 質問2つ×5人=10分 5分おまけ	議論したいこと 学生目線① 学生に期待したいこと 学生でもできること 各自治体目線② 首都圏企業に注目してもらうためには? 行政区分を超えた地域連携のコツは?	司会 藤原 サポート 中山
15:55-16:00	まとめ 落としどころ 「官民一体で関係人口創出・ワーケーションを盛り上げてこそ可能性が広がる」	司会者の特権で学生意見を述べる ・札幌圏学生も参加しやすいワーケーションの場・ことづくり ・首都圏学生も参加しやすいワーケーションの場・ことづくり	司会 藤原 中山

第12回合同研究発表会(2日目)

13:30~14:40 第1会場 特別講演会 企画

Zoom ミーティング

<https://us06web.zoom.us/j/81581909963?pwd=d2s1NmdkRk5HWWEhYY3NrVjRvcVBIUT09>

ミーティング ID: 815 8190 9963

パスコード: 510320

田中輝美 先生(島根県立大学地域政策学部准教授 関係人口論担当)

(講師紹介)

島根県生まれ。大阪大学大学院人間科学研究科後期課程修了、博士(人間科学)

山陰中央新報社に入社し報道記者として、政治、医療、教育、地域づくり、定住・UI ターンなど幅広い分野を担当。その後、同社を退職し、島根に暮らしながら、地域のニュースを記録、発信。2017年10月には『関係人口をつくる一定住でも交流でもないローカルイノベーション』(木楽舎)を出版。2021年には『関係人口の社会学』大阪大学出版会を刊行。

講演「地域との新しい関わり方・関係人口」

(内容要旨)

講演会は Zoom オンラインで行われますが、聴講学生の皆さんと対談形式での講演会を期待していません。

過疎化や少子高齢化が進むいま、全国の地方自治体が「移住定住」に力を入れていますが、日本全体の人口が減るなかで、どこかの定住人口が増えれば、その分どこかが減ります。その中で住んでいなくても継続的に特定の地域に関わる人を指す「関係人口」という考え方が注目されています。

島根県は現在 68 万人。ピーク時(90 万人)から 20 万人以上人口が減っています。じつは「過疎」という言葉の発祥地ともいわれていますが、むしろ地域づくりの最先端になれる可能性があり、全国から注目されています。

本来、関係人口っていうのは、移住定住のためのものではなくて、地方に足りない力を貸してもらうことが本質だと思います。実際、関わって力を貸している中で愛着が高まって、移住する人も出てきます。

地域の課題はインフラの未整備ではなく、実は「心の過疎化」だと言われています。関係人口のような外の人材が関わることで、諦めの気持ちが前向きになる。特に、一生懸命に関わる学生の力は大きいです。地域の人たちが励まされ、創発によって新しいものが生まれやすくなる。学びながら地域の皆さんと一緒に実践していくことが、お互いのプラスになります。

関係人口はよそ者の概念。よそ者にも地域に関わる役割があります。学術的にも「地域を再発見する力」とか「誇りを育てる」とか「しがらみのない立場からの解決案の提示」とか言われています。簡単にいえば、違和感や感動を伝えるのが役割です。

地域を元気にするためには、他人任せはダメ。「人が楽しそうに暮らしている地域が魅力的だから、まずは自分たちが楽しくしよう」。変えるのはあなたなのです。



田中輝美先生(島根県立大学)近影

SCAN とは何か？

SCANは「Sophisticated Community and Academics for Networking」の略称。地域に住む住民、企業、自治体と大学が結びつくことによって、よりよい地域、コミュニティを作っていこうという想いが込められており、道内の大学を中心に地域社会の発展に資する研究を行うことをいいます。SCANの運営は学生主体で行っており、大学教員が顧問としてサポートしています。

(1)活動の目的

地域活性化に繋がる地域社会貢献活動を情報発信することが活動目標です。そのために以下の活動をおこないます。

- (a)日頃のゼミでの研究活動を披露しあい、各大学ゼミの相互研鑽を図ります。
- (b)研究活動を通じて地域行政や住民、企業との交流を深め地域社会貢献に資する活動を行います。
- (c)地域活性化につながる政策提言を行い、北海道の地域発展に資する貢献を行います。

(2)活動の特徴

- (a)地域研究に意欲的に取り組み、実践的な活動を行っている全道主要大学のゼミが参加します。
- (b)年1回、一同介して日頃の研究発表をおこないます。
- (c)2010年に発足以来、これまでに11回を開催。参加大学は道内だけでなく、道外からの参加大学もあります。
- (d)これまでSCANでの発表の傾向は、「課題研究発表」でしたが、今年は「社会貢献度」に変化してきています。但し、実現可能性の面でやや弱く、アイデア段階に留まる研究もあります。
- (e)2017年度より主催校が変更しています。釧路(釧路公立大学)から札幌(札幌大学)に運営事務局を変更しています。

(3)SCANの研究視点

- (a)北海道の地域活性化
- (b)政策提言
- (c)実践的な地域社会貢献
- (d)学生ならではのユニークなアイデアの創出
- (e)地域住民、行政、企業、大学が結びつき、よりよい地域、コミュニティを形成。

○SCANの魅力ー参加のメリット

参加大学生

- ①大学の最新の発表事例に触れ、今、大学生が地域社会貢献に何をすべきかを知り、仲間を得る機会があります。
- ②地域企業や関係機関、行政との直接的交流の場があり、普段の疑問や今後の活動について協力、参画の機会があります。
- ③事例発表を行う学生には同世代の各大学の学生との交流のほか、研究発表を通じて審査員からの助言や各関係機関、企業からの助言を得て、相互研鑽、相互扶助の場を得ることができます。

参加高校生・高校教員

- ①地域志向、地域の将来を真剣に考える大学生との交流ができます。
- ②大学でどのような研究が行われているのか、そもそも大学とは何か、地域社会貢献に取り組む大学の姿勢を見ることができます。

- ③協賛企業との接点や交流ができ、地域社会貢献に熱心に取り組む企業の活動や取り組みが理解できます。
- ④各高校での取り組みをこの SCAN 活動を通して発信できます。

参加企業／協賛自治体／各関係機関

- ①参加学生や高校生、高校・大学教員に対して企業活動や社会貢献への取り組みをPRできる機会があります。
- ②今日の学生や高校生が地域の活性化、地域振興にどんな取り組みをしているのか、またどのようなことに関心を持っているのかをオンライン対話により知る機会があります。
- ③SCAN 活動の情報を逐次提供します。
- ④各大学に課題先進地域の調査研究等と呼びかけていきます。
- ⑤大学ゼミの取り組み情報を提供していきます。

○参加方法(研究発表参加と聴講参加)

●エントリー方法(参加意思確認)

Google Formsにて受付(※切 令和3年9月3日)

<https://forms.gle/vr24EKr6Je2mHjUS8>

●研究発表の枠組み

審査員より審査を受ける発表と審査員の審査を受けない発表を選択することができます。
 審査を受ける発表には、予選(1日目)と本選(2日目)があります。
 審査を受けない発表は、ゲスト発表とよびます。
 高校生も大学生も同じ枠組みを適用します。
 若者らしい斬新なアイデアを盛り込んだ研究を期待しています。

	研究部門	概要
審査対象 発表	実現可能性追求研究 (推奨研究)	実現可能性を考慮した政策提言, 地域研究です。 審査員がもっとも期待している研究です。
	ゼミ・グループ研究	大学ゼミでの研究(分析)や日頃のグループ研究を対象としています。 政策提言よりも分析を重視した研究になります。
ゲスト発表	ゲスト発表	活動報告 研究レベルにはないが、 活動報告に位置づけられる部門 活動紹介, 過去の活動報告, 地域紹介等

●参加方法

発表者だけが参加する大会ではありません。

関心のある人すべてが参加できる大会です。聴講参加、発表参加のほか、PR を前提とした参加(協賛参加)も可能です。協賛費用については別途相談になります。

聴講参加	本活動に関心を持っていただける高校生、すでに活動実績のある高校生、指導を行っておられる高校教諭、大学にて研究活動を行っている学生、ゼミ、また研究・教育に携わる大学教員、本活動にご理解のある企業関係者、行政関係者にぜひ参加頂きたいです。
発表参加	すでに活動実績のある大学ゼミ、新たに発表を希望する大学ゼミに発表機会を提供します。 今後は地域社会で、すでに貢献されている個人や組織にも対象を広げ、活動報告の場を広げていこうと思います。
協賛参加	本活動にご理解いただける企業関係者の皆様にご参加頂きます。企業 PR の場も提供できるよう検討していきます。

●発表資料形式の標準化

今年度は審査員による審査付き発表については、発表方法・資料作りの標準化を図ります。以下の流れで資料を作ってください。

テーマ紹介

→現状分析(データ分析)→課題・問題点の導出→(既存研究の成果・・・必要に応じて)

→アイデアを披露→実現性の検討

例)

テーマ紹介	伝えたいこと、結論を題名にする。 大学名、チーム名、メンバー名を明記する。 目次は発表の流れを、数字を振るなどしてわかりやすく示す。 研究した事柄、テーマに至った経緯などを短くまとめる。
現状分析	現状のデータをグラフや表などを用いて分析し、文章化する。 使用したデータの出所を明らかにする。 〈例：(出所)〇〇より作成〉
課題・問題点の導出	現状分析で示したデータをもとに、課題・問題点を示す。 アイデアの独自性、斬新さも評価の対象となる。
既存研究の成果	テーマに関連する過去の事例、研究等を示す。 発表内容によって、事例を好例、悪例とするのは自由である。 また、必ずしもこの項目を発表に組み込む必要はない。
アイデアを披露	現状分析、課題の導出で認識した問題に対する解決法を示す。 政策提言、アイデア提言にはデータの裏付けを重視する。
実現性の検討	披露するアイデアについて、 どれくらいの費用や労力、時間を要するのか?を明確にする。

○参加実績のある大学と高校の一覧

- ・札幌大学
- ・北海学園大学
- ・北星学園大学
- ・札幌学院大学
- ・釧路公立大学
- ・北見工業大学
- ・名寄市立大学
- ・函館大学
- ・公立ほこだて未来大学
- ・北海道教育大学釧路校
- ・大阪経済大学
- ・島根県立大学
- ・奈良県立大学
- ・新陽高等学校

●発表参加のスケジュール

	時期	備考
エントリーの流れ	合同研究発表会 参加する場合	
今年度の企画説明		今年度の企画説明(未定)、今年度の企画概要を各関係者(大学、高校、協賛企業、行政機関等)に配信、配布していきます。
今年度の参加意思確認	9月3日	発表を予定される大学ゼミ、高等学校関係者には参加意思確認をおこなっていきます。
発表テーマ(仮)の送付	9月17日：高校生	発表を予定される大学ゼミ、高等学校関係者には発表の仮テーマをご提出いただきます。後日の変更は可能です。
	9月30日：大学生	
発表テーマと概要の送付	10月8日	発表テーマとその発表の概要についてお送りいただきます。当日の大会資料、審査員の募集、依頼、協賛企業への働きかけ、その他広告宣伝等になります。
発表レジユメの提出期限	11月12日	発表されるレジユメ(パワーポイント資料)を提出して頂きます。なお、提出後に校正期間を設けます。

(注)発表チームには詳細なスケジュールを別途お送りします。

○これまでの活動実績（2010年～2020年 研究大会）

(1) これまでの研究テーマと優秀事例発表

一貫して地域をテーマにして大会テーマを設定してきた。

第1回(2010)合同研究発表会テーマ「地域」(2010年12月18日)

・学生団体の組織の設立。従来にない学生と地域の新たなつながりを創出して、地域に関する研究を行う。

第2回(2011)合同研究発表会テーマ「再生」(2011年12月10日)

・東日本大震災における多大な被害からの再生・復興や、地域の諸問題について様々な視点から再生・発展を目指す。

第3回(2012)合同研究発表会テーマ「連携」(2012年12月8日)

・新たに理系大学を加え、札幌でのカレッジフォーラムの開催を試み、学問と地域間の壁を越える連携を目指す。

優秀論文賞

「地域医療連携における自治他病院の役割」

(札幌学院大学 加藤ゼミ)

「地域活性化のために地方大学に求められる意義と役割—経済・教育・研究の観点からの考察」

(釧路公立大学 下山ゼミ)

「北海道新幹線についての考察—札幌延伸が地域に与える影響と課題」

(札幌大学 武者ゼミ)

第4回(2013)合同研究発表会テーマ「北海道の魅力～発見と活用～」(2013年11月30日)

・新たに道外大学を加え、10大学が参加。北海道の魅力や地域の諸問題について研究を行う。

優秀論文賞

「旅行先選択行動の実証分析—根室地域における研究旅行の可能性」

(釧路公立大学 下山ゼミ)

「北海道の自然エネルギー利用による地域の持続可能な発展の可能性」

(釧路公立大学 神野ゼミ)

「釧路管内における小児ワクチン接種の現状と摂取率向上のための課題」

(釧路公立大学 皆月ゼミ)

「消費者に北海道の旬を伝えるタッチポイントデザイン」

(公立はこだて未来大学 高度ICT 海洋系)

第5回(2014)合同研究発表会テーマ「北海道の可能性」(2014年12月13日)

・従来の課題研究型から政策提言型への移行、最優秀論文を設ける。質の高い北海道の可能性について研究。

優秀論文賞

「僻地、広域な地域における心臓リハビリテーション患者向けアプリケーションに関する研究

—北海道の事例に基づいた構築—

(釧路公立大学 皆月ゼミ)

「持続可能な別海酪農についての考察」

(北海学園大学 大貝ゼミ)

「まちづくり型観光 ～フットパスによる内発的発展～」

(釧路公立大学 神野ゼミ)

「観光資源の再発見 ～ないところにあるもの～」

(北海学園大学 大貝ゼミ)

第 6 回(2015)合同研究発表会テーマ「地方創生と向き合う」(2015 年 12 月 12 日)

・「釧路地域研究助成」を受け、従来の一般セッションに加えて釧路地域研究成果報告セッションを設けた。

優秀論文賞

「ニセコに学ぶ地方創生のあり方と課題」

(札幌大学 中山ゼミ)

「フットパスが呼び覚ますコミュニティの多元的機能

—釧路市橋南地区を題材として—

(釧路公立大学 神野ゼミ)

第 7 回(2016)合同研究会発表会テーマ「スポーツといきる地域」

・東京五輪を4年後に控え、我が国のスポーツへの関心が深まる中で様々な分野に横断的なスポーツについて研究する。北海道経済産業局主催の RESAS 分析フォーラム第 1 回大会に初参加。

優秀論文賞

「地域特性に応じた総合型地域スポーツクラブのモデル提案～釧路におけるスケートを視点として～」

(北海道教育大学釧路校 内山ゼミ)

「橋南地区フットパス～地域と健康～」

(釧路公立大学 神野ゼミ)

「地域経済における交通網のネットワーク効果」

(釧路公立大学 下山ゼミ)

第 8 回(2017)合同研究発表会テーマ「地域イノベーション」

(サブテーマ:「地域特性の活用」、「スポーツコミュニティ」)

・地域の潜在的な資源の活用、掘り起しを通じてイノベーションの観点から地域振興のあり方を見直す研究。北海道経済局主催の RESAS を活用した政策アイデア創出セミナー(2017.10.6)に参加。和歌山県主催の「第 1 回データ活用コンペティション」の最終選考会に出場。協賛企業 NEC 賞を受賞。

(優秀論文賞)

「高校野球と地域活性化～甲子園出場は地域を元気にするか～」

(釧路公立大学 下山ゼミ)

「地域活性化に若者は必要。美唄市の滞在・交流人口の増大化への提言」

(札幌大学 中山ゼミ)

「シカの経済学—動物資源の経済的評価—」

(奈良県立大学 下山研究室)

第 9 回(2018)合同研究発表会テーマ「地域コミュニティ」

(優秀論文賞)

まちあそび「人生ゲーム」を通じた地域コミュニティの創出と交流人口拡大 ～岩見沢市商店街編～

(札幌大学 中山ゼミ)

統合型リゾートを日本で導入することの是非

(札幌大学 武者ゼミ)

地域愛の創出 ～廃校活用イベントによる実践的研究～

(北海学園大学 宮島ゼミ)

ご朱印めぐりが与える社会的経済的影響 —奈良市全域の実態調査を通じて—

(奈良県立大学 下山研究室)

第 10 回(2019)合同研究発表会テーマ「持続可能な地域づくり」

・近年、国や国際団体だけでなく、地域や教育機関でも取り組まれている持続可能な開発目標(SDGs)に着目し、持続可能な地域づくりについて研究。

(最優秀賞)

「マッチングアプリを活用した空き家問題の解決及び地域活性化の推進」
(釧路公立大学 東ゼミ C)

(優秀賞)

「ゲームを用いた環境教育の価値推計」
(北星学園大学 野原ゼミ B)

(優秀賞)

「国際化する現代社会において札幌市が目指すべき都市計画」
(北海学園大学 宮島ゼミ)

第 11 回(2020)合同研究発表会テーマ「持続可能な地域づくり」

(最優秀論文賞)

道新地域アイデア賞
「持続可能な地域づくりのためのナッジ理論を応用した環境配慮型行動の推進」
(北星学園大学 野原ゼミ A)

北海道銀行地域創生部賞

「北大通活性化～中心市街地に若者を呼び込むには～」
(釧路公立大学 神野ゼミ B)

北海道観光を考えるみんなの会賞

「釧路市に最適な TMO の事業～釧路市・福井市の相互比較より～」
(釧路公立大学 東ゼミ A)

(SCAN 特別賞)

「西部地区活性化を目的とした EV 車を利用した新交通の提案」
(函館大学 佐藤ゼミ)

○SCAN の実績—研究発表の成果がどう実現したのか

第 9 回(2018)合同研究発表会 優秀論文賞受賞

まちあそび「人生ゲーム」を通じた地域コミュニティの創出と交流人口拡大 ～岩見沢市商店街編～
(札幌大学 中山ゼミ)

札幌大学の中山健一郎教授のゼミナールAチームによる研究が、昨年に続き、優秀論文に輝きました。

岩見沢市の人口減少に歯止めがかからない中、駅前商店街の撤退や廃業により、空き商店が増え、荒廃化が進んでいます。それとともに、店主の高齢化による事業承継者不足の問題が深刻化しています。こうした中、岩見沢市ではまちなか再生計画を推進するものの、思うような効果が出ていませんでした。本研究では 2012 年からまちなか活性化の取り組みの一つとして、島根県出雲市ではじまった「まちあそび人生ゲーム」を岩見沢商店街に持ち込みました。岩見沢商店街の地域分析を踏まえた上、アレンジし直すことで、普段は人通りの少ない商店街に地元の人のみならず遠方からも人を呼び込む試みとして「まちあそび人生ゲーム」を開催いたしました。

この研究が実現するには、岩見沢青年会議所を中心に商店街や学生が協力をすることが不可欠でした。この研究が実現し、成功をおさめたのは、企業と学生が協力することができたからです。

●事業発展将来計画

- (1)SCAN の知名度を高め、SCAN に協賛する企業、参加校、高校を増やします。
- (2)SCAN 参加校、高等学校の枠組みをつくります。
- (3)SCAN 参加校、高等学校の共同研究あるいは、参加校、高校の枠を超えた地域研究の促進を図ります。
- (4)地域との連携を深め、課題先進地域をはじめ、地域の課題に向き合い、学生や高校生の視点から地域の問題解決行動や研究を推奨します。
- (5)SCAN 事務局機能を強化し、また SCAN 参加校、高校のネットワークを強化し、参加校からの情報提供、地域課題情報、企業依頼情報、行政関係情報の発信(イベント案内、研究会案内、研修会案内等)し、研究促進や活動促進につながる支援をします。
- (6)実現性の高い政策提言研究の促進を図ります。
- (7)SCAN の運営を札幌大学以外でも行い、幹事校内で運営を回す輪番制を実施検討します。

●2021 年度事業について

2020 年度は、行動が制限されるなかで、実現が可能な範囲で以下のいくつかの点に重きを置きました。

- (1) 第 2 回オンライン合同研究発表会を開催予定です。
- (2) 実現可能な領域に踏み込んだ研究活動を奨励します。
- (3) 今後も高校生チームの参加促進を図ります。
- (4) SNS を通じて、全国に活動を PR します。

●合同研究発表会後の SCAN

私たち北海道学生研究会 SCAN は現在運営している YouTube チャンネル及び SNS で、道内・道外問わず多くの方に認知してもらい発信力のある組織を目指します。その過程で道内の自治体や企業と繋がり、地域を盛り上げられる存在になります。

○SCAN の発展ビジョン

第 1 期(釧路公立大学運営事務局期間)

第 1 回	第 2 回	第 3 回	第 4 回	第 5 回	第 6 回	第 7 回
2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
釧路で SCAN 発足		理系 大学 参加	道外 大学 参加	最優秀 論文賞 設置	研究助成研究 着手	RESAS フォ ーラム 参加
合同研究発表会を 釧路公立大学にて開催						
課題研究を重視				政策立案型研究にシフト		
単一地域・アイデア・分析重視					複数地域、 地方自治体との 連携	

第2期(札幌大学運営事務局期間)

第8回	第9回	第10回	第11回	第12回
2017	2018	2019	2020	2021
札幌に事務局移転	高校生チーム初参加	第1回ワークショップ開催	第1回オンライン大会開催	第2回オンライン大会
札幌大学で合同研究発表会 釧路公立大学でインターカレッジフォーラムを開催	札幌大学で合同研究発表会		オンライン大会を開催	
実現可能性の検討を取り入れた政策提言の研究を重視				
経済産業省北海道経済産業局, 北海道銀行, 北海道新聞社はじめとする地域金融機関, 地域企業の協賛・協力をもとに開催。				

2021年度 第12期 SCAN 実行委員会メンバー

役職	氏名	学年
運営代表	伊澤 滉二	3年
企画代表	加藤 拓史	3年
渉外代表	山形 透梧	3年
広報代表	大野 皓平	3年
企画副代表	廣島 優奈	2年
渉外副代表	石崎 萌絵	2年
広報副代表	山田 真平	2年
会計担当	加藤 葵	2年
企画担当	藤原 光至	2年
	工藤 稜平 小林 圭太 高橋 希武 竹井 佑	1年
渉外担当	大嶋 浩成 奥寺 洸矢 前川 慶太	2年
広報担当	山本 広大	3年
	阿部 秀馬 小坂 太陽	2年

(札幌大学 地域共創学群)

○お問い合わせ

●SCAN 公式ホームページ

<http://scan-946.jimdo.com>

●YouTube

https://youtube.com/channel/UCm5XqhSCgzoh4_Pd8_FbFLw

●Twitter

<https://twitter.com/SCAN48394013>

●Facebook

<https://www.facebook.com/Scan北海道学生研究会-102435562089537>

●運営本部

北海道学生研究会 SCAN 運営事務局 (札幌大学)

〒062-8520 札幌市豊平区西岡 3 条 7 丁目3-1 札幌大学

E-mail scan_su@yahoo.co.jp / Mobile phone

学生代表 伊澤 滉二

E-mail naka-ken@sapporo-u.ac.jp /研究室 TEL & FAX 011-852-9015)

顧問 中山 健一郎

(札幌大学地域共創学群 教授)

北海道学生研究会

SCAN